

菅波 茂

れた私の哲学である」と主張した。共鳴していただき、嬉しかった。

台湾国際衛生行動隊は

3月27日。台湾の首都台北で創設3周年を迎えた台湾国際衛生行動隊と災害協定を締結した。

式典には台湾政府の外務、保健大臣をはじめ各国の大使が参列。AMD Aとの協定を紹介した大きな垂れ幕を背景に、台湾国際衛生行動隊のアジアや中南米における災害救援医療活動の実績と国際社会に対する貢献が紹介された。

壇上で署名する前にスピーチを求められた。アジア人同士が再び決して武器を持って戦ってはいけない。世界が経済成長著しいアジアに期待している。アジア人は団結して医療で世界平和に貢献すべし。第2次世界大戦直後の1946年に生ま

外務省と保健省で構成されている政府系人道支援の医療団体である。08年5月に発生した中国・四川大地震の時にも救援医療活動を実施した。台湾と正式な国交のない国にも積極的に医療チームを派遣、2週間交代で長期間の医療活動も行っている。幾多の大病院で構成する台湾病院協会が人材を提供する。台湾の医師は欧米留学経験者が多く、非常に臨床レベルが高い。

さらに、中国文化を基

本として日本文化も受け入れており、海外事情に対して非常に柔軟性がある。台湾の保健医療事情が昔から良いのは、当時の優秀な青年が「政治に影響されない、医学の道

台湾国際衛生行動隊との災害協定「相互扶助」と「義」

を選んだから」と保健副大臣が説明された。台湾国際衛生行動隊とAMD Aがアジア各国でAMD Aの支部と共に、白内障手術や口唇^{くちべん}蓋裂^{がいせつ}など、眼科や形成外科手術を行うことも合意した。台湾の医療界で大きな影響力を持っておられる、日本の医科大学を卒業された70〜80歳以上の先生方から、AMD Aと台湾国際衛生行動隊の協力体制に支援の表明を頂いたのは心強かった。

驚いたことに、台湾国際衛生行動隊の保健大臣直下で40歳前半の実施責任者が、同行したAMS A（アジア医学生連絡協議会）のOBである岩永資隆先生の知り合いだった。AMS Aは80年に私が創設した団体である。災害時の医療チーム派遣を決定するホットラインを、私と彼との間に設置

することを決定。当時の医学生たちが今や40〜50歳になり、社会の重要な地位で活躍している現実には感無量だった。AMS Aはアジア15カ国・地域の学生が参加し、毎年の国際会議には400人以上が集まる団体へ成長。OBの数はすでに5000人を越えている。アジア各地に膨大な医師の人脈が存在している。近い将来、AMD Aの大切なパートナーとしての役割を果たすことを期待している。

AMD Aが災害被災者救援に医療チームを派遣する理由は「相互扶助」である。台湾衛生行動隊のスローガンは「国境なき愛」である。保健副大臣に提案した。被災者救援医療活動の時に「何故にあなたは私たちを助けるのか、何故に私はあなたを助けるのか」に答え（AMD Aグループ代表）

することは大変重要である。「理由なき親切は誤解される」と。「愛」はキリスト教文化に基づく欧米のコンセプトである。世界人口の約20%は中国人である。中国人の文化を背景にしたスローガンを世界にアピールすべきではないかと。多くの中国人が信仰している道教の奥義は「義」だと思ふ。日本人が中途半端に理解しているが故に真の相互理解が達成できていないのも、「義」の定義がわからないためである。「義」とは何か。簡単にわかりやすい定義をしてほしい。「相互扶助」

AMS Aと台湾国際衛生行動隊の協力体制の意義として世界にアピールしたい。私の提案に保健副大臣は前向きに考えることを約束してくれた。